

【アメリカ視察報告①】

はじめに

皆さんこんにちは！ M情報を書かなければと思い1年ほど経ってしまった岩泉です。現在髄膜炎で入院中ですが、社長から「入院していてもM情報はかける」と叱咤激励を受けたのでベッドの上で書いています(笑)

今回は7月末～8月の4日間アメリカ視察に行く機会を頂きましたので、その報告をさせていただきます。数回分けてお伝えできればと思っておりますので宜しくお願い致します！

視察概要

今回の視察は、アメリカのウィスコンシン州グリーンベイという場所を拠点に3件ほどの酪農場と、預託農場を一件見ることができました。

その中で今回は預託農場の視察報告をさせていただきます。

Calf Raunch

視察させて頂いた預託農場は Calf Raunch さんと



いう超大型預託農場です。

*ハッチの一部です。写真に納まりきりませんでした。実際はこの3倍ほどあります。

ハッチで5000頭(哺乳子牛)、離乳後の牛がフリーバーンで4000頭飼育されており、ハッチの地平線ができています。

顧客は40件ほどで、うち半分が酪農家残りの半分がアンガス種を始めとする肉牛の繁殖農家さんとのことです。

子牛の管理

かなり大規模な Calf Raunch さんですが、子牛の死亡率は1%台と高いわけではなく、頭数が多く病気が蔓延しやすい割にはむしろ低いように感じました。

そこで Calf Raunch さんでルーティーンで行っている管理を教えてくださいましたので紹介します。

① 入牧時のチェック

→BVD検査、血清タンパク測定、臍の腫れ

② 徹底したワクチネーション

→肺炎予防をメインにしつつ、ピンクアイなども！

大きく分けると予防のために行っているルーティーンは上記の2つだそうです。順に説明します。

① BVD検査:これは日本でも行われているBVDの検査です。糞便を採取し検査します

血清タンパク測定:これは初乳給与による免疫移行が行われているかを確認しています。この数値をデータ化し、顧客にフィードバックしつつ、あまりに低い(初乳を飲ませていない)場合は初乳の給与方法の見直しを農場と話し合います。

臍の腫れ:「臍帯炎は万病のもとになる」ということをオーナーさんが重視しているようで、少しでも腫れている場合は即治療に移るとのことです。

② 徹底したワクチネーション

日本では販売していないタイプのワクチンを使用していたため、詳細なワクチンプログラムは割愛しますが、肺炎系のワクチンを3回、ピンクアイのワクチンを1回の計4回を2カ月間で打つそう



Total Herd Management Service

です。今回視察した他の農場も同様でしたが、ワクチネーションの徹底が広く普及しており、打ち忘れがないように「みんなで連携する」というよりも、「ワクチンを打ち忘れることはあり得ない」

という認識でワクチネーションに取り組まれていたことが印象的でした。

排水対策・ハッチ内換気対策

最後に、農業廃水に厳しいアメリカならではの、日本でもぜひ真似していききたいと思うこと



が2つありましたので紹介させていただきます。

それがこのハッチエリアの傾斜です！アメリカでは預託農場でも一定の規模を超えると糞尿などの排水を回収し、畑に還元しなければいけない為、この農場では1%前後の傾斜をつけていました。その為、水はけが非常によく、雨が数日続いても中の糞は比較的早く乾燥するというお話でした。

また、ハッチ内の乾燥に一役買っていたのがこれです！



ハッチの後ろ側に適当なサイズの角材をかませることで敷き藁に空気が吹き込みやすいようにしていました。これは日本でも今日からすぐ実施できるハッチ内換気ですので、ぜひ皆さんお試しください。

かなり駆け足で紹介してしまいましたが、実際はもっともっとお伝えしたいこの農場のこだわりがまだまだありましたので、ご興味がある方は岩泉までご連絡ください！！



Total Herd Management Service